



幸せの懸け橋に

一人でも多くの人を幸せに導くための懸け橋を目指しています。

Our Vision

IPOを遅らせないための
リスクマネジメント体制整備運用 **7つ** のポイント



BRIDGE

ブリッジコンサルティンググループ株式会社

ブリッジコンサルティンググループ概要



運営メディア



ブリッジコンサルティンググループ株式会社

設立: 2011年10月25日

本社: 〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-3 市政会館5階

資本金等: 1億9,489万円

株主: 役員、従業員、上場会社4社

代表者: 代表取締役 宮崎 良一

国内拠点: 大阪 : 〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町2-5-28 久太郎町恒和ビル8階
名古屋: 〒451-0042 愛知県名古屋市西区那古野2-14-1 なごのキャンパス2-13
札幌 : 〒060-0807 北海道札幌市北区北7条西2-20 東京建物札幌ビル3階
広島 : 〒730-0022 広島県広島市中区銀山町3-1 ひろしまハイビル21 16階
静岡 : 〒410-0057 静岡県沼津市高沢町1-3-503

グループ人員: 取締役: 3名(うち、社外2名)、監査役: 1名、常勤社員: 50名、非常勤社員100名

顧問: Cross Over法律事務所 代表弁護士/公認会計士 尾下 大介
(元 東京証券取引所(日本取引所自主規制法人)上場審査部)

登録プロフェッショナル: 約2,500名

業務概要: 公認会計士のプロ集合知能を活用した経営管理支援

経営管理の課題解決のための幅広いサービスを提供させていただいております。
ブリッジコンサルティンググループ株式会社が窓口となり、ワンストップで対応させていただきます。

カテゴリ	サービス内容	担当
リスク マネジメント サービス (RMS)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 内部監査 ■ J-SOX ■ 海外子会社管理支援 ■ IT統制/IT監査 ■ 全社的リスクマネジメント支援 	BCG
IPO支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ IPO総合支援(Project Management) ■ I の部/ II の部作成支援 ■ IFRS上場支援 	
バックオフィス ソリューション (BOS)	<ul style="list-style-type: none"> ■ バックオフィス構築支援 ■ 各種経営管理システム導入支援 ■ 業務効率化支援 ■ J-GAAP 決算開示支援(連結/単体) ■ IFRS 決算開示支援(連結/単体) ■ 英文財務諸表作成支援 	
フィナンシャル アドバイザー サービス (FAS)	<ul style="list-style-type: none"> ■ M&Aアドバイザー ■ デューデリジェンス (財務/税務/労務/法務/ビジネス) ■ 株価/企業価値算定 ■ PPA評価 ■ ストックオプション制度設計支援 ■ ストックオプション公正価値評価 	
人材紹介	<ul style="list-style-type: none"> ■ 監査役人材 ■ CFO人材 ■ 経理マネージャー人材 	

カテゴリ	サービス内容	担当
税務支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上場会社税務支援 ■ IPO準備会社税務支援 ■ 資産管理会社税務支援 ■ 税務セカンドオピニオン 	税B
人事労務 支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人事制度策定支援 (就業規則等の規程策定支援を含む) ■ 人事管理ツール導入支援 ■ 社会保険アウトソーシング ■ 給与計算アウトソーシング 	SBM
法務支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企業法務サポート ■ 商業・不動産登記業務 	司B
行政手続 支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 会社設立サポート ■ 許認可申請サポート 	行B
事業承継 相続支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業承継コンサルティング ■ 遺言・相続遺産承継業務 ■ 財産承継コンサルティング ■ 資産税務申告書代理作成 	BCG 税B BP

◆ 略称の説明

BCG : ブリッジコンサルティンググループ株式会社
 税B : 税理士法人Bridge
 SBM : 社会保険労務士法人ソーシャルブライトマネジメント
 司B : 司法書士法人Bridge
 行B : 行政書士法人Bridge
 BP : 株式会社BridgePromotion

IPOへ向けての資本政策支援、プロジェクトマネジメント、リスクマネジメント体制の整備運用支援、申請書類作成支援等の形で多数の企業様のIPOをご支援しております。(2019年は新規上場86社中9社、2020年は新規上場93社中15社をご支援。)

経営理念・ビジョン・ミッション・業績目標、等

業務の有効性・効率性

財務報告の信頼性

法令遵守

リスク

リスク

リスク

リスク

リスク

リスクの現実化

損失の発生

投資家の利益の毀損

その他利害関係者(社員、顧客、仕入先、etc.)の損害

防ぐために

リスクマネジメント体制の整備運用

リスク識別

リスク評価

リスク対応
(内部統制)

モニタリング
(内部監査)

IPOへ向けて上記体制の整備運用が求められる

日本取引所自主規制法人 年次報告(2019年)

- 承認に至らなかった件数は46(全体の約2割、前年度から大幅に増加)
- リスクマネジメント体制(内部管理体制)の不備が主因
 - ✓ 各種法令への遵守体制
 - ✓ 子会社管理体制
 - ✓ オーナー経営者に対する牽制体制



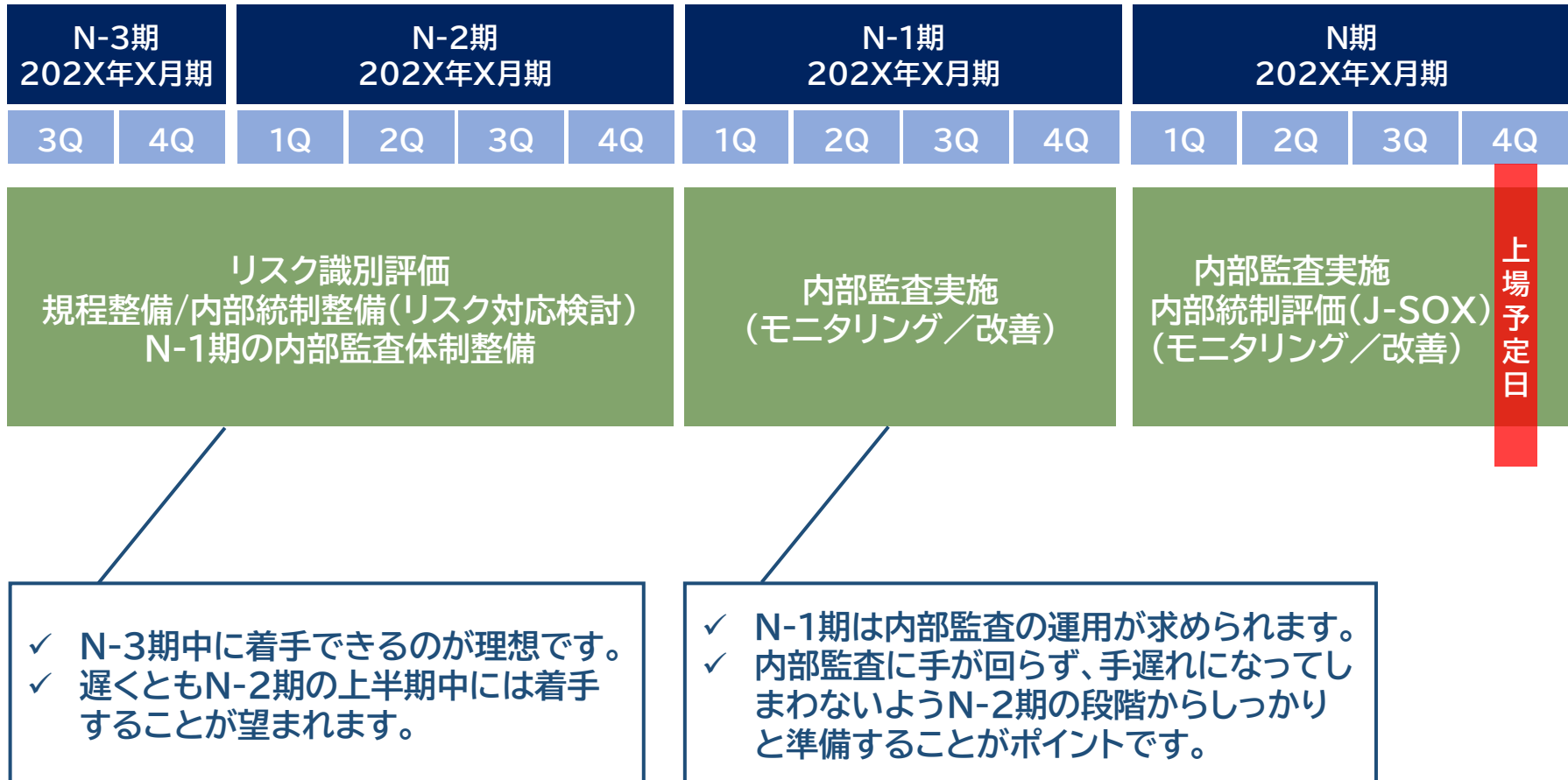
**IPOへ向けては
リスクマネジメント体制の整備運用が
極めて重要**

- ◆ 「リスクマネジメント体制の不備が理由となってIPOが遅れてしまった」ということのないようにするために、IPOへ向けてのリスクマネジメント体制整備運用について、以下の7つのポイントからお伝えいたします。

- ① スケジュール
- ② 当事者意識
- ③ リスクアプローチ
- ④ システム化
- ⑤ エビデンスチェック
- ⑥ タイムリーな自浄作用
- ⑦ リソース確保

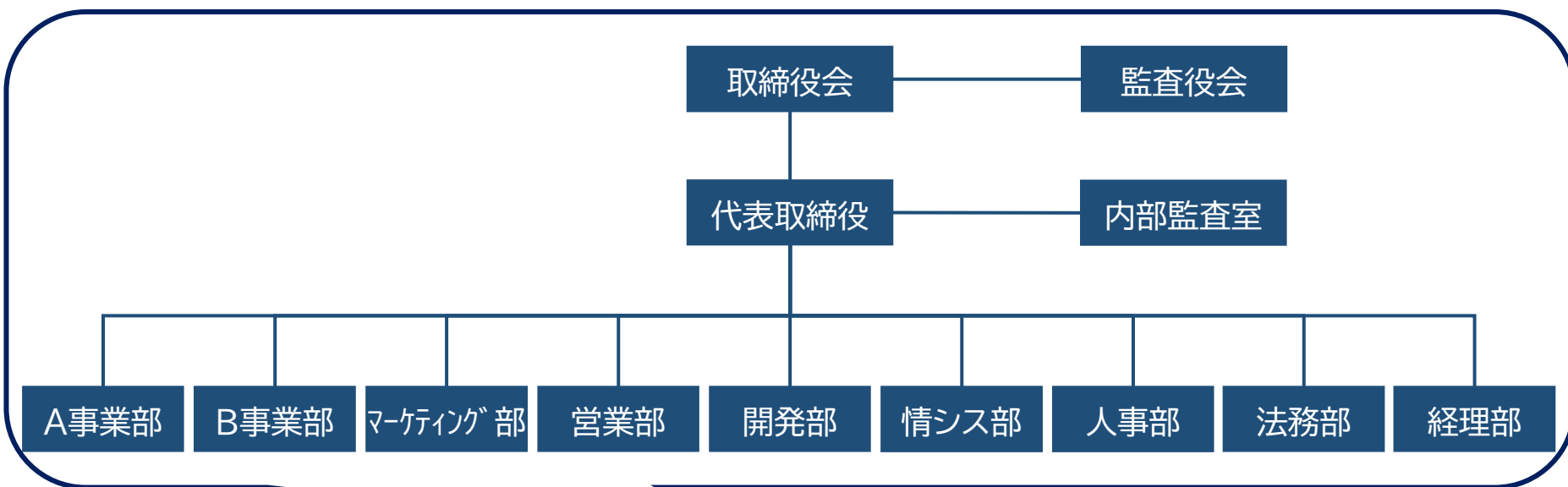
Point1.スケジュール

- ◆ IPOへ向けてどのような時間軸でリスクマネジメント体制を整備し運用していくのか、全体スケジュールを常に意識しておくことが第1のポイントとして重要です。



Point2.当事者意識

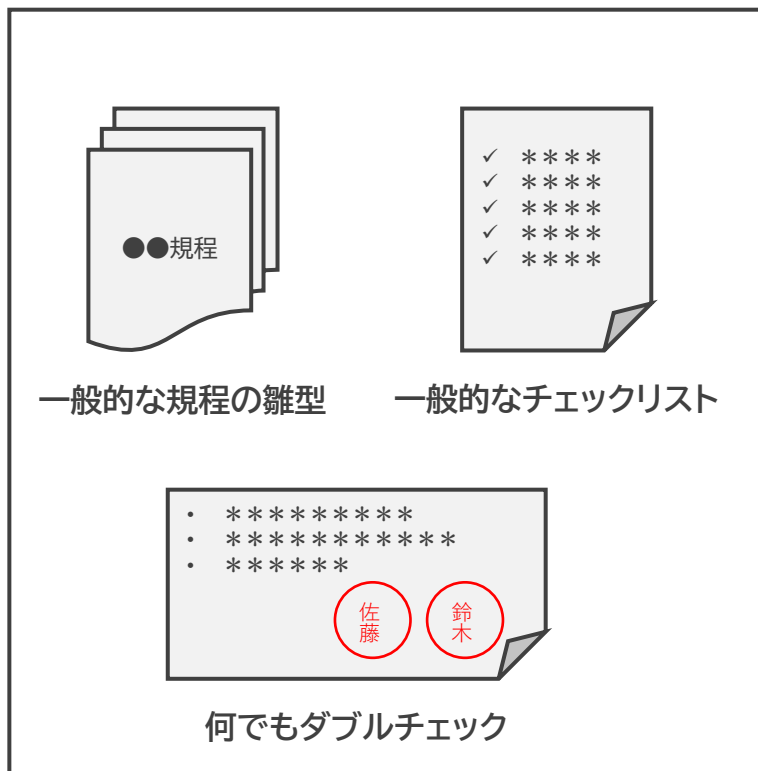
- ◆ リスクマネジメントは、管理部門や内部監査部門だけが行なうものではなく、すべての部門・役職員が当事者です。
- ◆ 各部門において、「管理部門に言われたからやる」という受け身の姿勢ではなく、主体的に自部門のリスクマネジメント体制を整備運用するという当事者意識を持つことがリスクマネジメントを有効に機能させるための重要なポイントです。
- ◆ 役職員の当事者意識醸成に当たっては、リスクマネジメントの目的・メリットを共有することが重要です。
- ◆ リスクマネジメントの目的・メリットを共有するために、リスクマネジメントに関する研修を実施することや、日常業務の中で管理部門や内部監査部門と各部門との間で建設的に対話を行うことが有効です。



全員がリスクマネジメントの当事者！！

Point3.リスクアプローチ

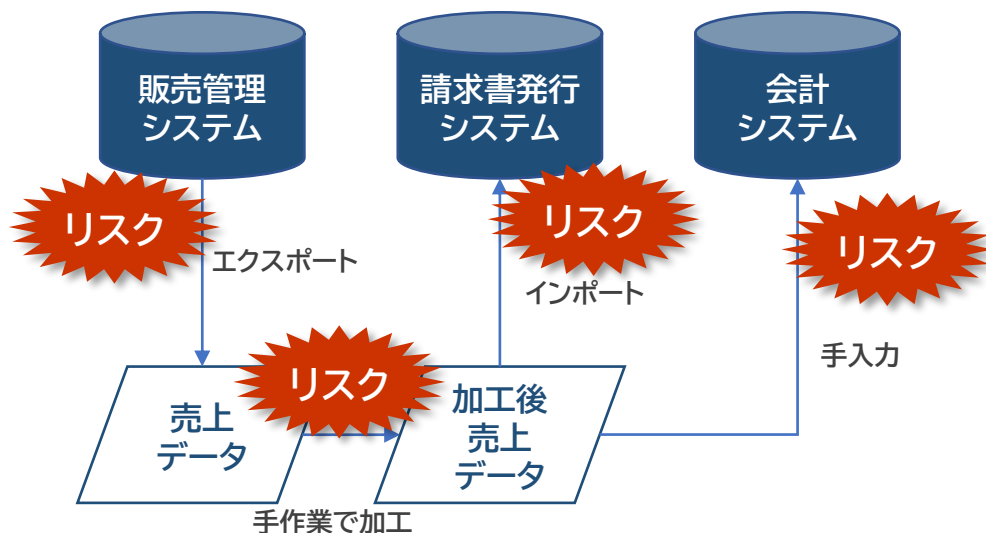
- ◆ 一般論的なルールをそのまま当てはめたり、あらゆる業務に強いコントロールを敷こうとするとリスクマネジメントはなかなかうまくいかず、形骸化や社員からの反発を招く可能性が高くなります。
- ◆ 自社のこの領域・論点・業務に関するリスクは何か、そのリスクは重要か、そのリスクを低減するためにはどうしたらよいかという観点でリスク対応策を検討し、運用することが重要です。
- ◆ リスク対応策(内部統制)の運用に際しては、この統制はどのリスクを低減するために行っているのかを運用する一人ひとりが意識することも重要です。



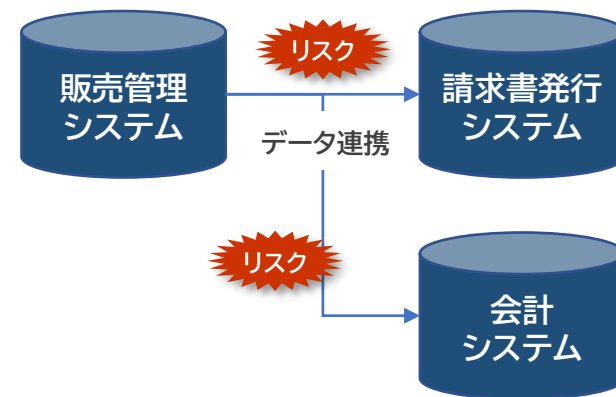
Point4.システム化

- ◆ 業務効率の観点や事務過誤低減の観点から、手作業の業務は極力減らしシステム化を図ることが有用です。
- ◆ 特に情報の転換点におけるデータの出し入れが増えると、それに応じてリスクも増大するため留意が必要です。
- ◆ また、システム化に当たっては、都度都度カテゴリ(会計、給与計算、勤怠、ワークフロー、販売管理、etc.)ごとにシステム化をしてしまったがために、継ぎ接ぎになって全体としてかえって非効率になってしまうということが起こりやすいため特に留意が必要です。全体最適、システム連関の全体像を常に意識してシステム化を図ることがポイントです。

システムが連携せずデータの出し入れが多い

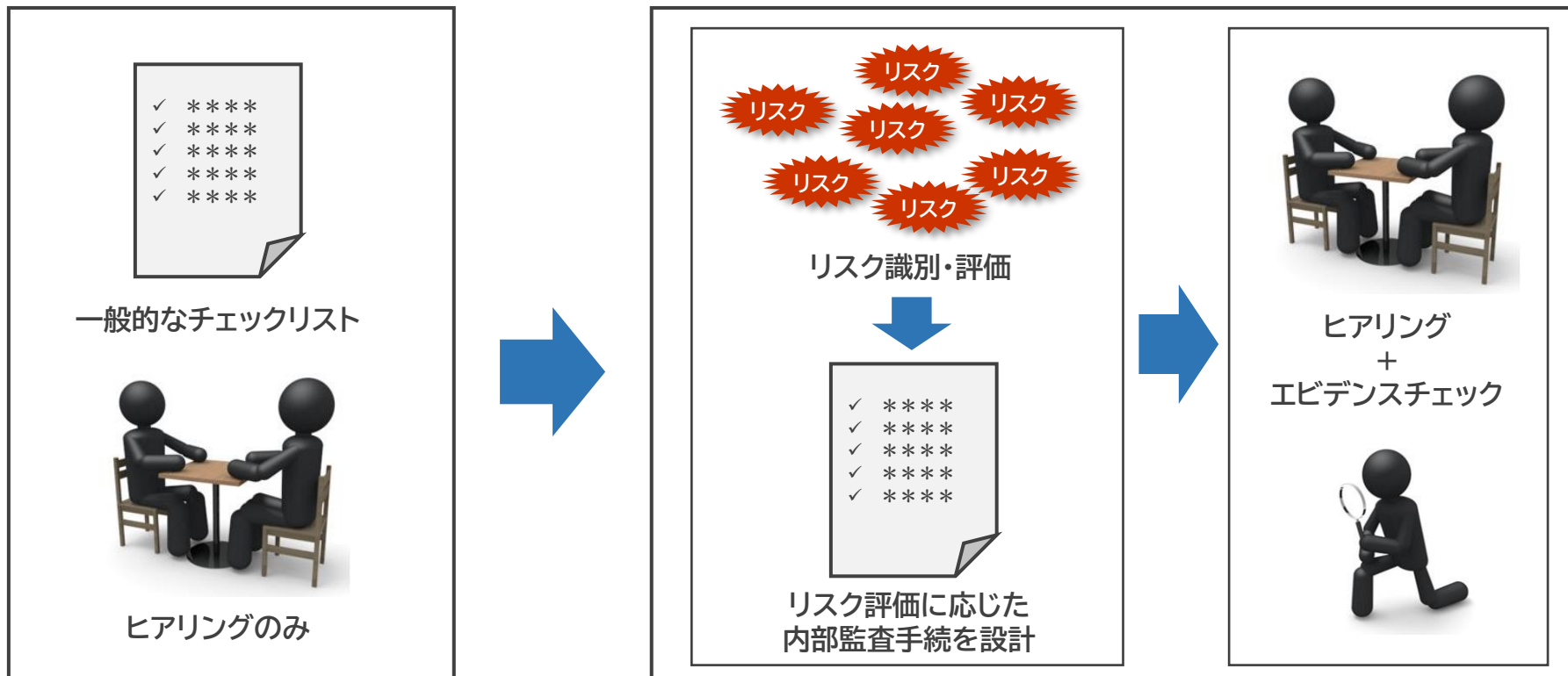


システムが連携



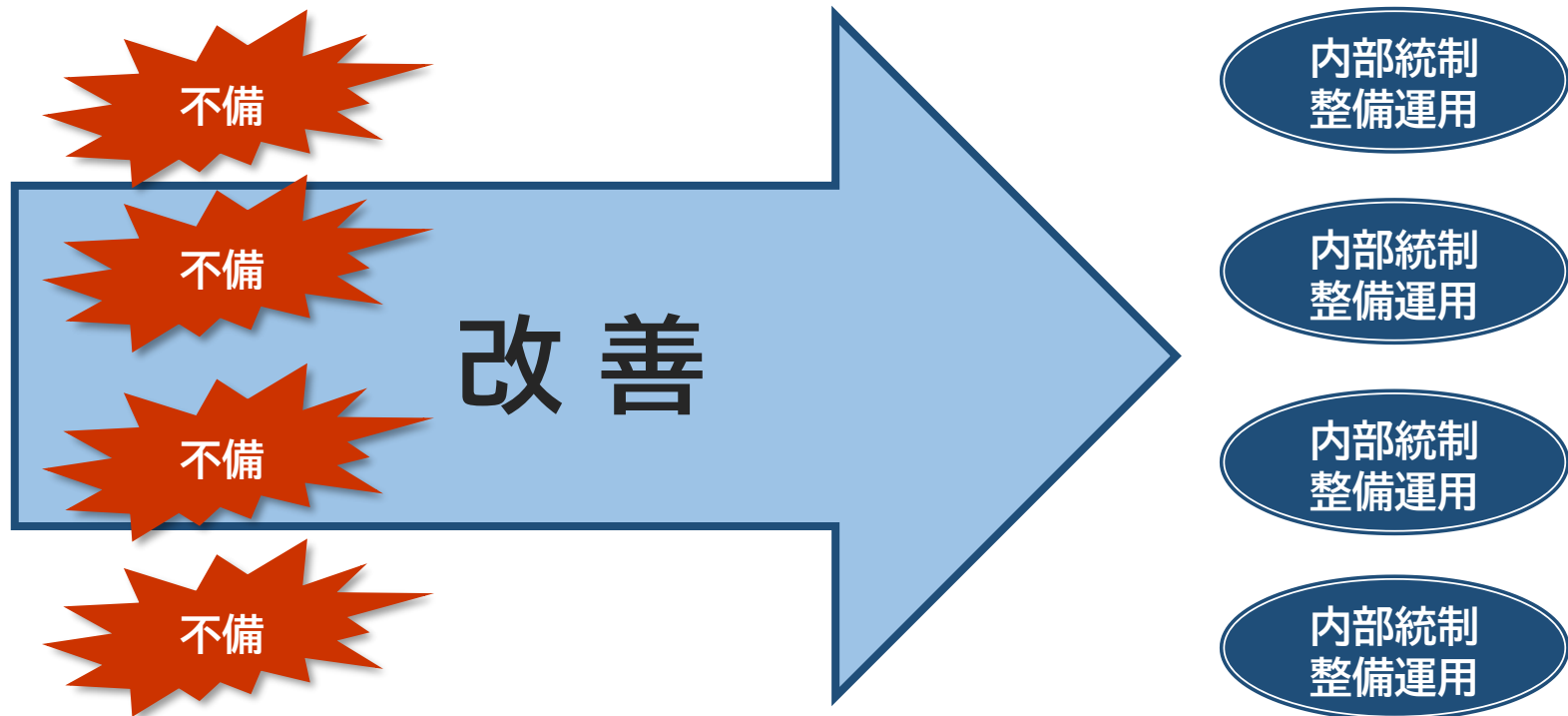
Point5.エビデンスチェック

- ◆ リスクマネジメントのモニタリング機能を担う内部監査はN-1期においては確実に運用をすることが求められます。
- ◆ 内部監査の実施に当たっては、一般的なチェックリストを基に監査対象部署の責任者に対するヒアリングのみで済ませてしまうと、実際に内部統制が運用されているかどうかを確認できず、実効性の高い内部監査とは言えません。場合によっては、やり直しを求められることもあるため、特に留意が必要です。
- ◆ 実効性の高い内部監査を実施するためには、リスクアプローチで監査手続を設計するとともに、監査手続実施に当たってはしっかりとエビデンスを確認することがポイントです。



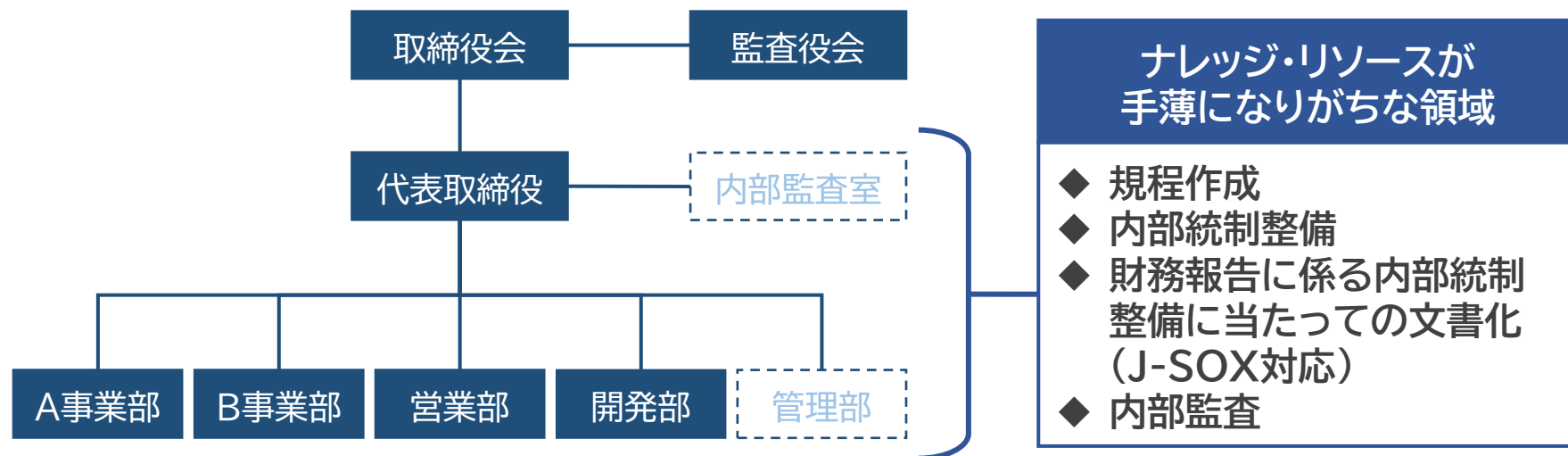
Point6.タイムリーな自浄作用

- ◆ 内部統制に関する重要な不備(欠陥)は極力早い時期(N-2期)に改善しておくことが望まれます。
- ◆ ただし、N-1期以降において、不備が出てはいけないというわけではなく、重要なことは不備を発見した場合に適時適切に改善できる「自浄作用が働く組織である」ということです。



見逃し・放置・隠蔽をすることなく
しっかりと自浄作用を働かせることが重要

- ◆ リスクに対応するための内部統制を整備し運用することや、モニタリング機能である内部監査を実施するためには、それを行うためのリソースの確保が必要になります。
- ◆ 特に人的リソースを正社員採用で確保しようとする場合には、採用母集団の大きさ(この領域での求職者が少ない)やマッチング(年収・社風・能力、etc.)の困難性といった課題もあります。
- ◆ 上記課題を解決するためにアウトソースをうまく活用しながらIPO準備を進めることも有効な選択肢の一つです。



アウトソースをうまく活用しながら進めるのも
賢い選択肢の1つ

- ✓ IPOへ向けてのリスクマネジメント体制整備運用に当たっては、①全体スケジュールを意識するとともに、②組織全員に当事者意識を醸成することが重要
- ✓ 内部統制を検討する際には、③リスクをベースに考えることがポイントであるとともに、④できる限りシステム化を図ることが有用
- ✓ 整備した内部統制の運用状況をモニタリング(内部監査)する際には、⑤エビデンスをしっかりと確認することが重要
- ✓ 内部統制の不備を発見した場合に、その事実我真摯に向き合い、タイムリーに改善を行う⑥「自浄作用が働く組織」であることが重要
- ✓ リスクマネジメント体制整備運用に当たっては⑦アウトソースをうまく活用しながら進めるのも賢い選択肢の1つ

本資料が貴社IPO準備の一助となれば幸いです



BRIDGE

幸せの懸け橋に

一人でも多くの人を幸せに導くための懸け橋になります

【お問い合わせ先】



BRIDGE

ブリッジコンサルティンググループ株式会社

ブリッジコンサルティンググループ株式会社

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-3 市政会館5階

TEL:03-6457-9105 FAX:03-6457-9106

E-mail: info_bcg@bridge-group.co.jp

執行役員／RMS事業部長

田中 智行